

沼津市子育て世帯の生活実態調査
報告書
(概要版)

令和5年3月
沼津市

目次

| | |
|--------------------------------|-----------|
| I 調査について | 1 |
| 調査の目的 | 1 |
| 調査の概要 | 1 |
| (1) 調査時期 | 1 |
| (2) 調査方法 | 1 |
| (3) 調査対象及び回収率 | 1 |
| (4) 本報告書を読む際の注意点 | 1 |
| II 主な調査結果（保護者） | 2 |
| 1. 回答者の属性 | 2 |
| (1) 世帯の構成 | 2 |
| (2) 両親の収入等 | 4 |
| (3) 子どもの貧困 | 6 |
| 2. 調査結果の集計 | 7 |
| (1) 子どもの学習環境について | 7 |
| (2) 保護者の生活環境 | 9 |
| (3) 保護者の子育て環境 | 13 |
| III 主な調査結果（児童・生徒） | 15 |
| 1. 回答者の属性 | 15 |
| (1) 回答者の属性 | 15 |
| 2. 調査結果の集計 | 15 |
| (1) 回答者の生活環境 | 15 |
| (2) 勉強や将来のこと | 16 |
| (3) 日常生活の中で感じていること | 18 |
| IV 今後の課題 | 21 |

I 調査について

調査の目的

沼津市では、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することのないよう教育の支援、生活の支援、保護者に対する就労の支援、経済的支援を施策の4つの基本方向として子育てしやすい環境づくりや子どもたちの健やかな成長のため子育て支援施策の充実に取り組んできました。

これらの施策を総合的に推進するにあたり、より効果的な支援のあり方について検討するため、本調査を実施しました。主な調査項目は、市内の子どもの生活状況や貧困実態を把握すること、支援制度の利用状況と問題点に関わるものとなっています。

調査の概要

(1) 調査時期

令和4年9月2日～9月22日

(2) 調査方法

学校にて配布・回収

(3) 調査対象及び回収率

市内の小学5年生・中学2年生の児童・生徒
およびその保護者

| | 配布数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|--------------|-------|-------|-------|
| 小学5年生 | 1,255 | 1,197 | 95.4% |
| 小学5年生 保護者 | 1,255 | 1,197 | 95.4% |
| 中学2年生 | 1,465 | 1,340 | 91.5% |
| 中学2年生 保護者 | 1,465 | 1,340 | 91.5% |
| 計 | 5,440 | 5,074 | 93.3% |

(4) 本報告書を読む際の注意点

- ・ 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、比率の合計が100%にならないことがあります。
- ・ 基準とする実数は、図表中に(n=)として記載しました。比率はこの基数を100%として算出しています。
- ・ 質問の選択肢から複数の回答を認めている場合、比率の合計は100%を超えます。
- ・ 文中、グラフ中の選択肢の文言は作図等の都合により一部簡略化する場合があります。

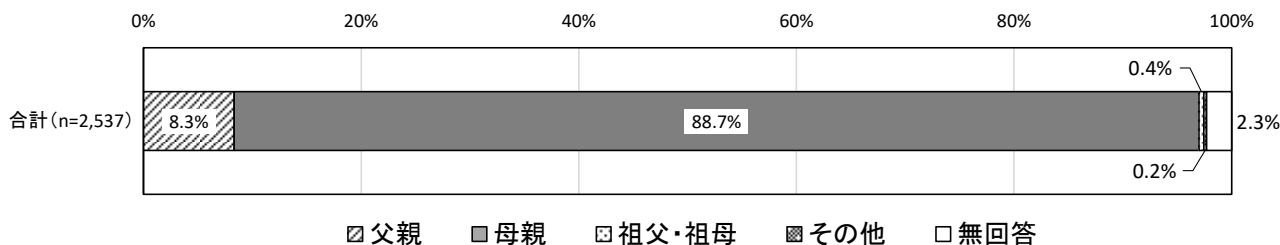
Ⅱ 主な調査結果（保護者）

Ⅰ. 回答者の属性

(1) 世帯の構成

■回答者の続柄

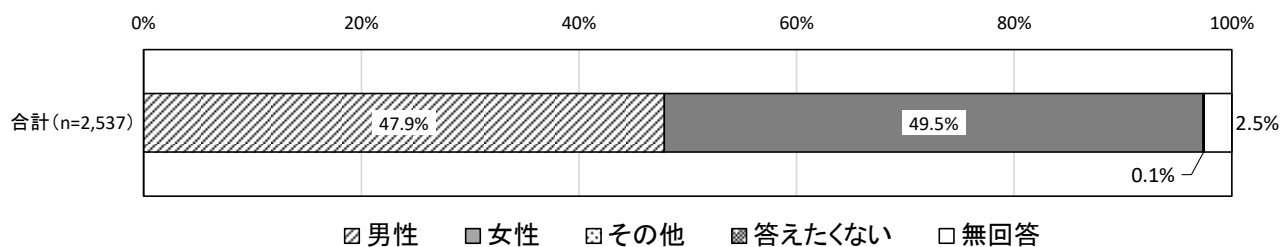
問1 この調査に回答いただいている方(あなた)の、お子さんからみた続柄についてお答えください。



回答者の続柄については、「母親」(88.7%)が最も多く、次いで「父親」(8.3%)となっています。

■お子さんの性別

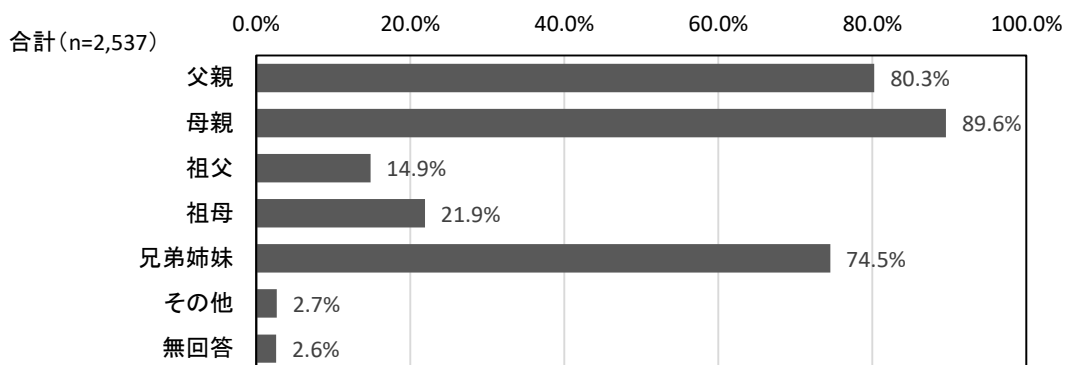
問2 お子さんの性別をお答えください。



お子さんの性別については、「男性」が47.9%、「女性」が49.5%、「答えたくない」が0.1%となっています。

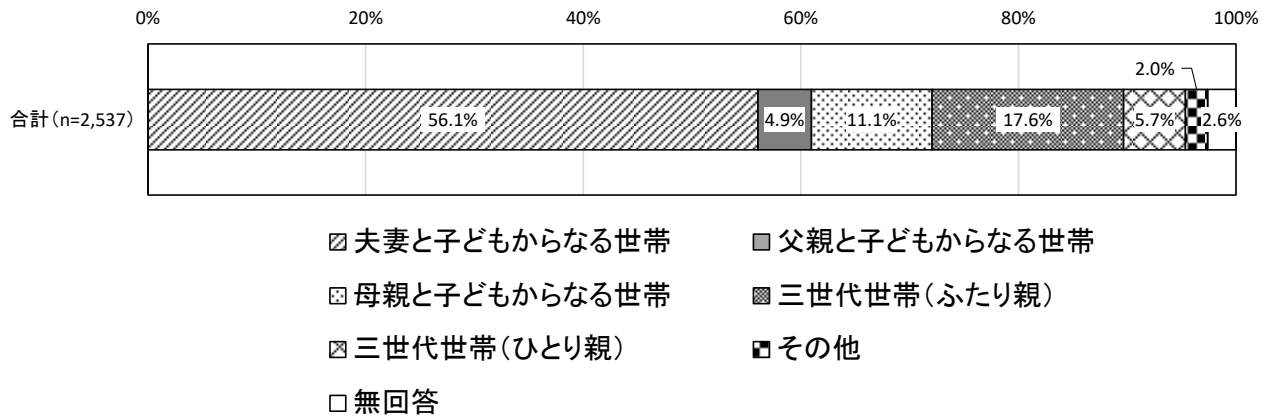
■同居家族の続柄

問3 同居している家族について、お子さんからみた続柄をお答えください。



同居家族の続柄については、「母親」(89.6%)が最も多く、次いで「父親」(80.3%)、「兄弟姉妹」(74.5%)、「祖母」(21.9%)、「祖父」(14.9%)の順となっています。

■世帯構成

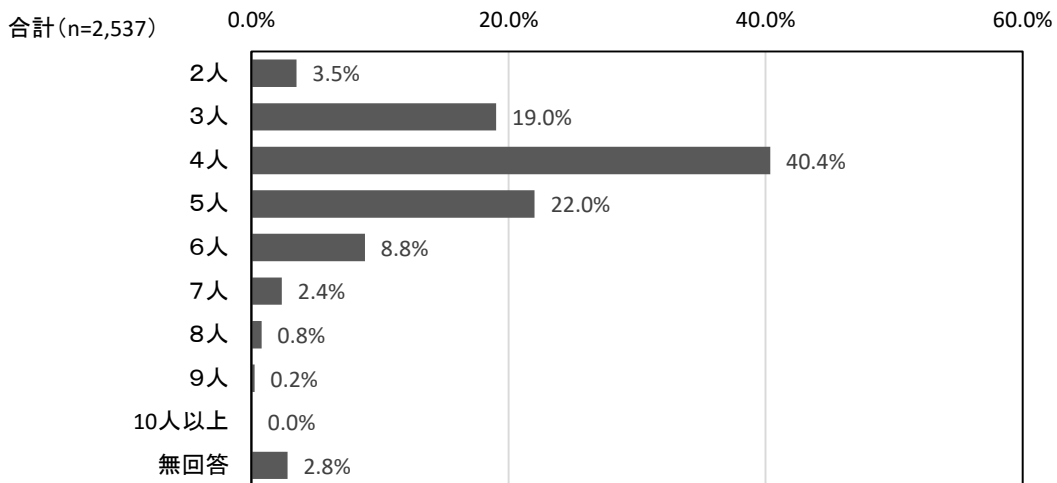


世帯構成については、「夫妻と子どもからなる世帯」(56.1%)が最も多く、次いで「三世帯世帯(ふたり親)」(17.6%)、「母親と子どもからなる世帯」(11.1%)の順となっています。

■世帯人数

問4 世帯の人数をお答えください。

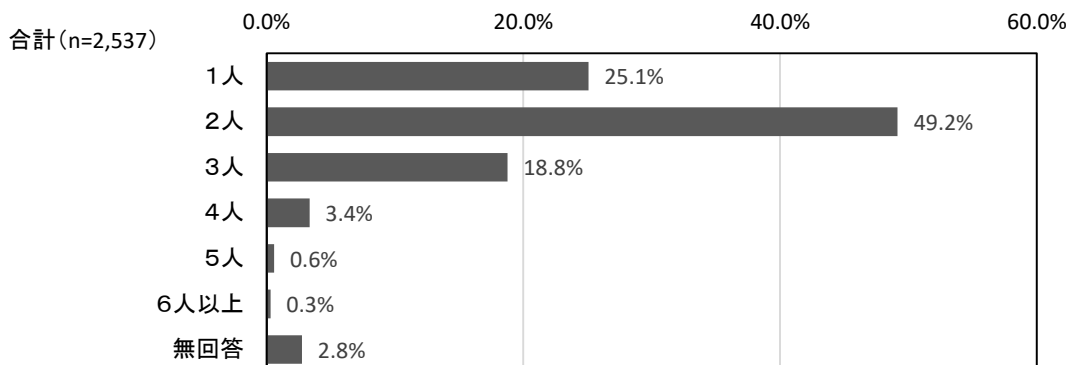
※生計を共にする同居の方(世帯員)について、あなたを含めてお答えください。



世帯人数については、「4人」(40.4%)が最も多く、次いで「5人」(22.0%)、「3人」(19.0%)、「6人」(8.8%)の順となっています。

■児童の人数

問5 世帯員のうち、児童(令和4年1月1日現在で0歳から18歳未満の方)の人数についてお答えください。



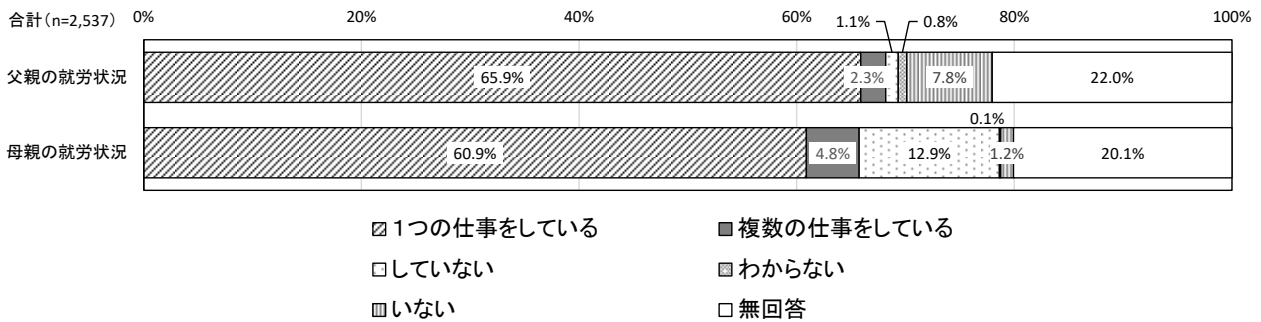
児童の人数については、「2人」(49.2%)が最も多く、次いで「1人」(25.1%)、「3人」(18.8%)の順となっています。

(2) 両親の収入等

■ 両親の就労状況と就業形態

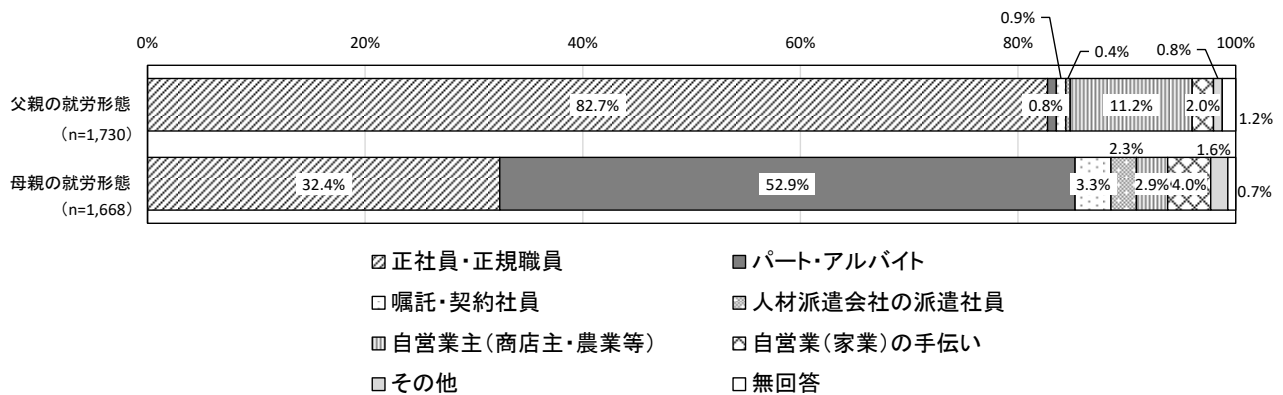
問8 お子さんの父親は、現在、収入を得る仕事をしていますか。

問9 お子さんの母親は、現在、収入を得る仕事をしていますか。



父親の就労状況については、「1つの仕事をしている」(65.9%)が最も多く、次いで「いない」(7.8%)となっています。また、母親の就労状況については、「1つの仕事をしている」(60.9%)が最も多く、次いで「していない」(12.9%)、「複数の仕事をしている」(4.8%)の順となっています。

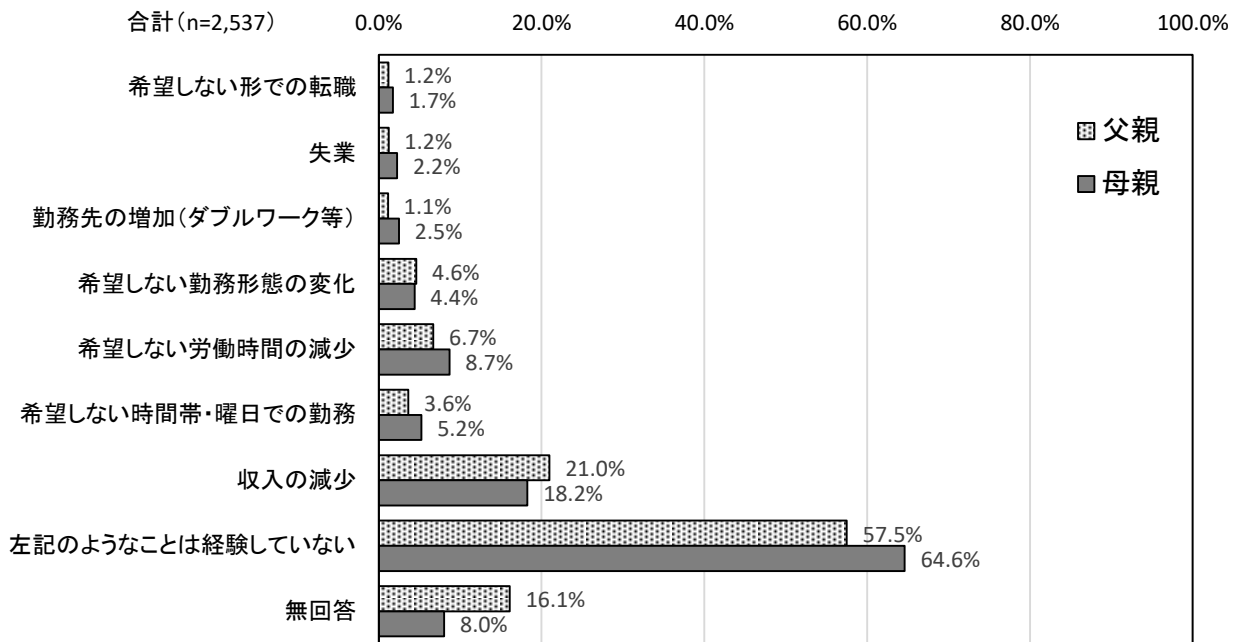
仕事をしているならば、主な仕事の就業形態をお答えください。



父親の就業形態については、「正社員・正規職員」(82.7%)が最も多く、次いで「自営業主(商店主・農業等)」(11.2%)となっています。また、母親の就業形態については、「パート・アルバイト」(52.9%)が最も多く、次いで「正社員・正規職員」(32.4%)、「自営業(家業)の手伝い」(4.0%)の順となっています。

■新型コロナウイルス感染症拡大の影響

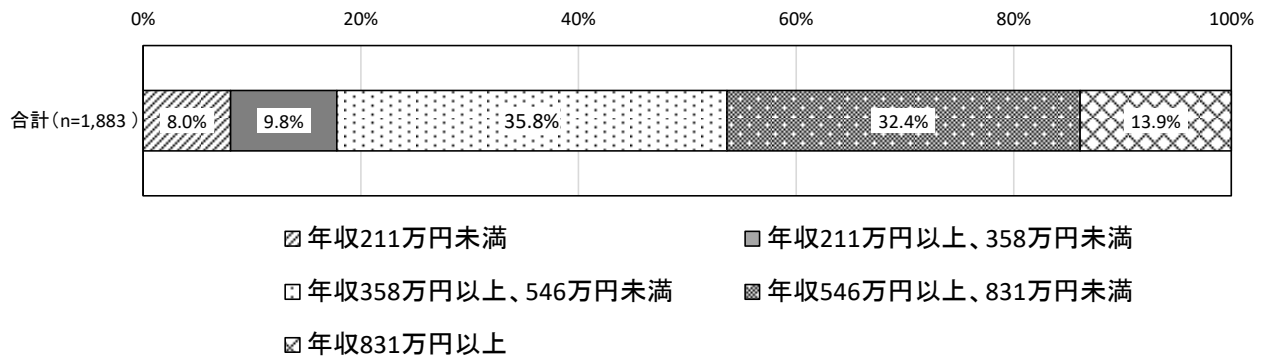
問10 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、以下のようなことを経験しましたか。



父親・母親とも「左記のようなことは経験していない」(57.5%)・(64.6%)が最も多く、次いで収入の減少(21.0%)・(18.2%)、希望しない労働時間の減少(6.7%)・(8.7%)の順となっています。

■年収階級(五分位)

問13 令和3年中(令和3年1月1日~12月31日)のあなたの世帯のすべての収入状況についてうかがいます。
あなたのご家族の全員の所得額(手取り額)の合計は、およそ何万円でしたか。



年収階級(五分位)[※]については、「年収358万円以上、546万円未満(第3五分位)」(35.8%)が最も多く、次いで「年収546万円以上、831万円未満(第4五分位)」(32.4%)、「年収831万円以上(第5五分位)」(13.9%)の順となっています。

※本調査では、所得五分位階級で世帯収入を年収階級別に整理しました。所得五分位階級とは、全世帯を所得の低いものから高いものへと順に並べて5等分し、所得の低い世帯群から第1・第2・第3・第4及び第5五分位階級とし、その境界値をそれぞれ第I・第II・第III・第IV五分位値(五分位境界値)とするものです。五分位境界値は、厚生労働省「2021年国民生活基礎調査」に基づきました。

(3) 子どもの貧困

■「子どもの貧困世帯」の定義

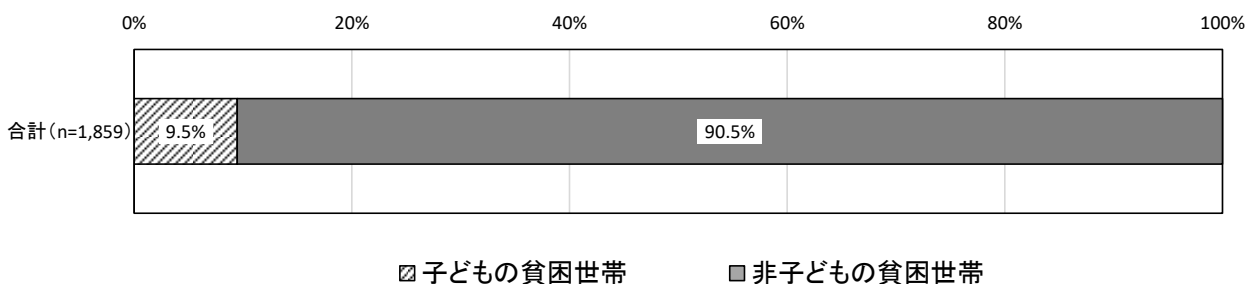
厚生労働省では、「子どもの貧困率」を「17歳以下の子ども全体に占める、貧困線に満たない17歳以下の子どもの割合」と定義しています。

貧困線とは、世帯全員に占める、等価可処分所得（世帯収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる「手取り収入」を、世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額をいいます。平成30（2018）年の国民生活基礎調査では、貧困線は127万円でした。

本調査については、世帯の児童数をもとに等価可処分所得を算出し、127万円未満の世帯を「子どもの貧困世帯」、127万円以上の世帯を「非子どもの貧困世帯」としました。

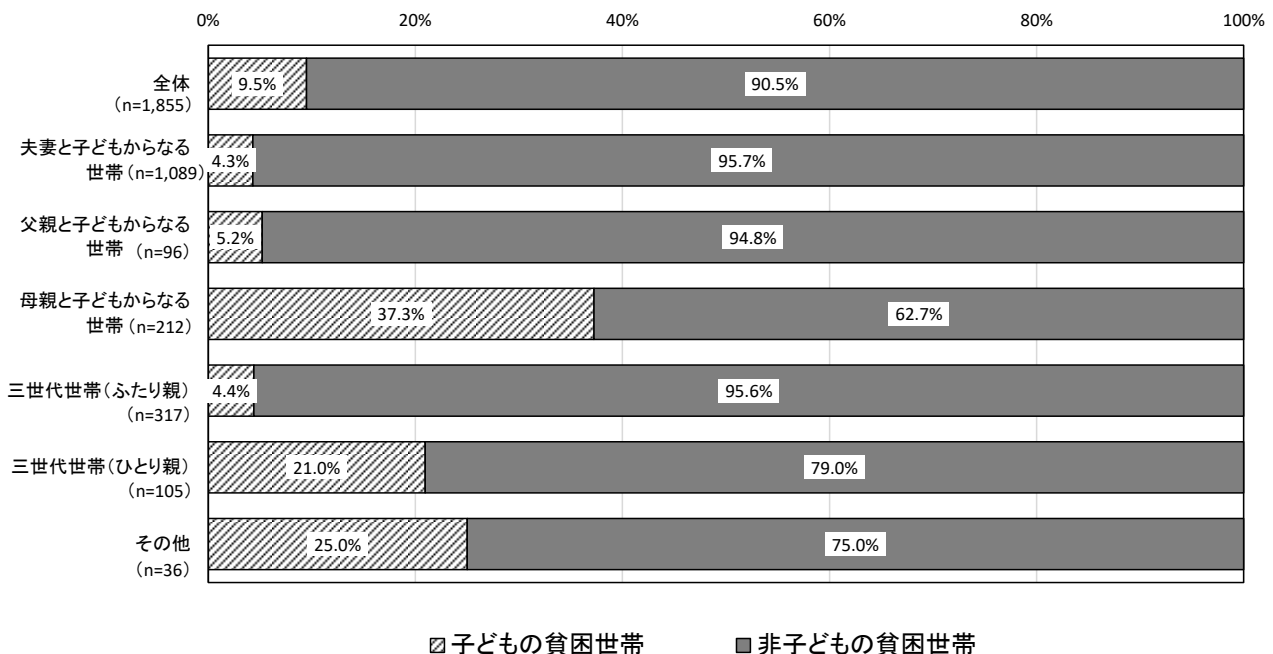
なお、等価可処分所得を算出できなかった678世帯については、全体の集計には含まれますが、「子どもの貧困世帯」、「非子どもの貧困世帯」の集計には含まれません。

■「子どもの貧困」の状況



沼津市では、「子どもの貧困世帯」が9.5%となっています。

■世帯の構成別にみた「子どもの貧困」の状況



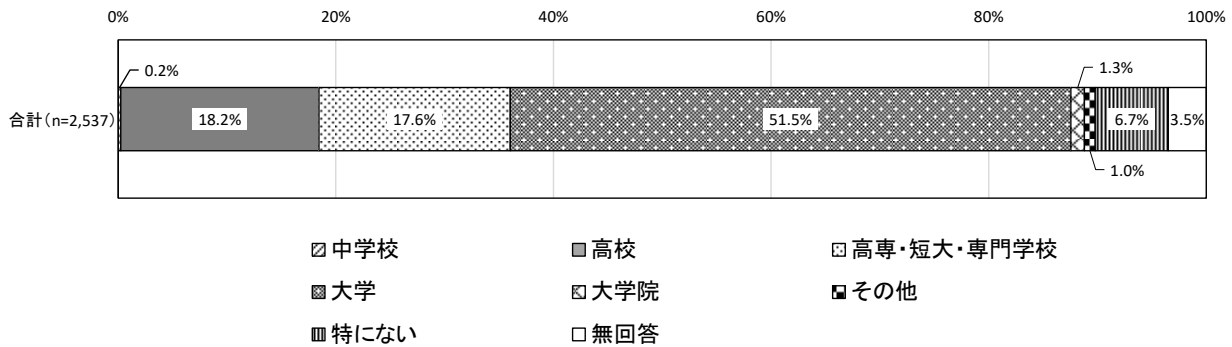
【世帯構成別】でみると、「母親と子どもからなる世帯」（37.3%）、「三世帯世帯（ひとり親）」（21.0%）、「その他」（25.0%）は「子どもの貧困世帯」全体（9.5%）より多くなっています。

2. 調査結果の集計

(1) 子どもの学習環境について

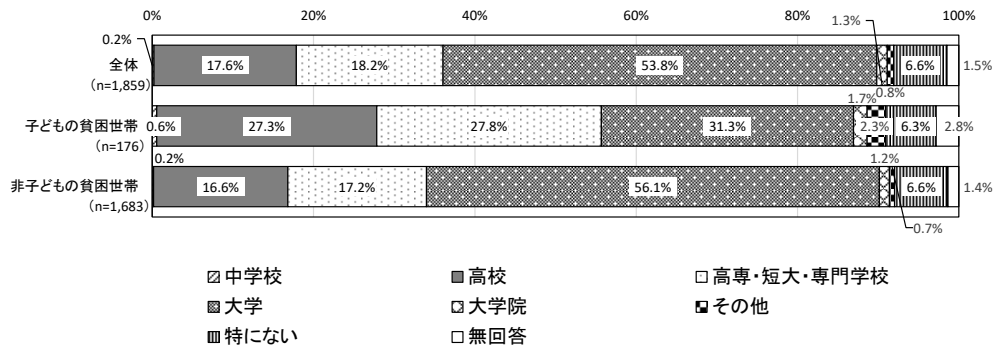
■親の子どもに対する進学先希望

問23 あなたは、お子さんの進学先としてどこまでを希望していますか。



親の子どもに対する進学先希望については、「大学」(51.5%)が最も多く、次いで「高校」(18.2%)、「高専・短大・専門学校」(17.6%)の順となっています。

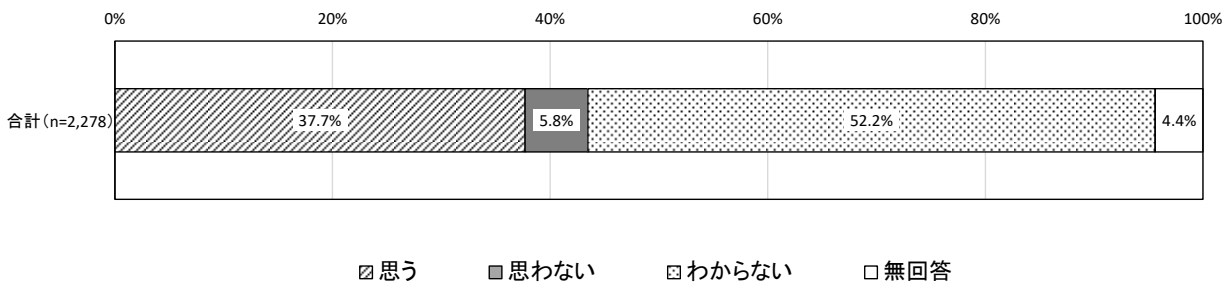
【子どもの貧困別】



【子どもの貧困別】でみると、「子どもの貧困世帯」は、「大学」(31.3%)が全体より少なくなっています。

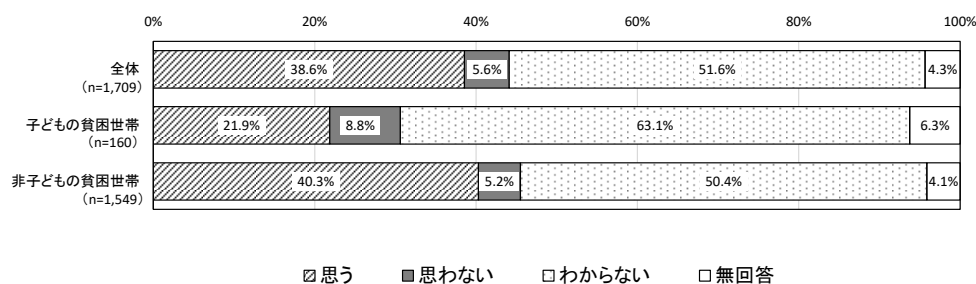
■進学先希望が叶うか

問23-1 問23で「1~6」と答えた方におたずねします。
お子さんが問23の希望どおり進学すると思いますか。



進学先希望が叶うかについては、「わからない」(52.2%)が最も多く、次いで「思う」(37.7%)となっています。

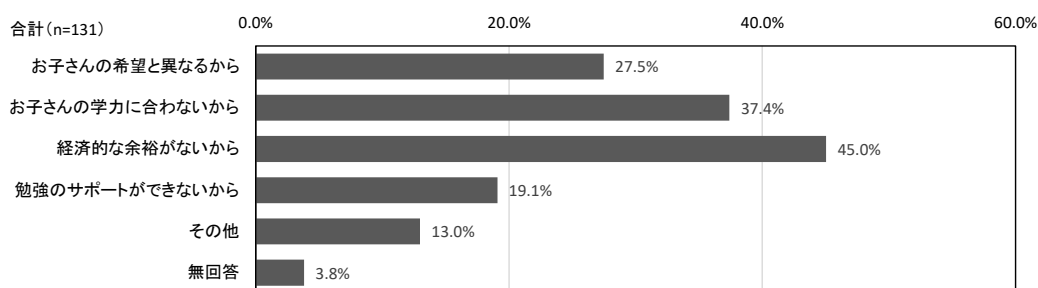
【子どもの貧困別】



【子どもの貧困別】でみると、「子どもの貧困世帯」は、「思う」(21.9%)が全体より少なくなっています。

■進学先希望が叶わない理由

問23-2 問23-1で「2 思わない」と答えた方におたずねします。
その理由についてお答えください。



進学先希望が叶わない理由については、「経済的な余裕がないから」(45.0%)が最も多く、次いで「お子さんの学力に合わないから」(37.4%)、「お子さんの希望と異なるから」(27.5%)、「勉強のサポートができないから」(19.1%)の順となっています。

【子どもの貧困別】

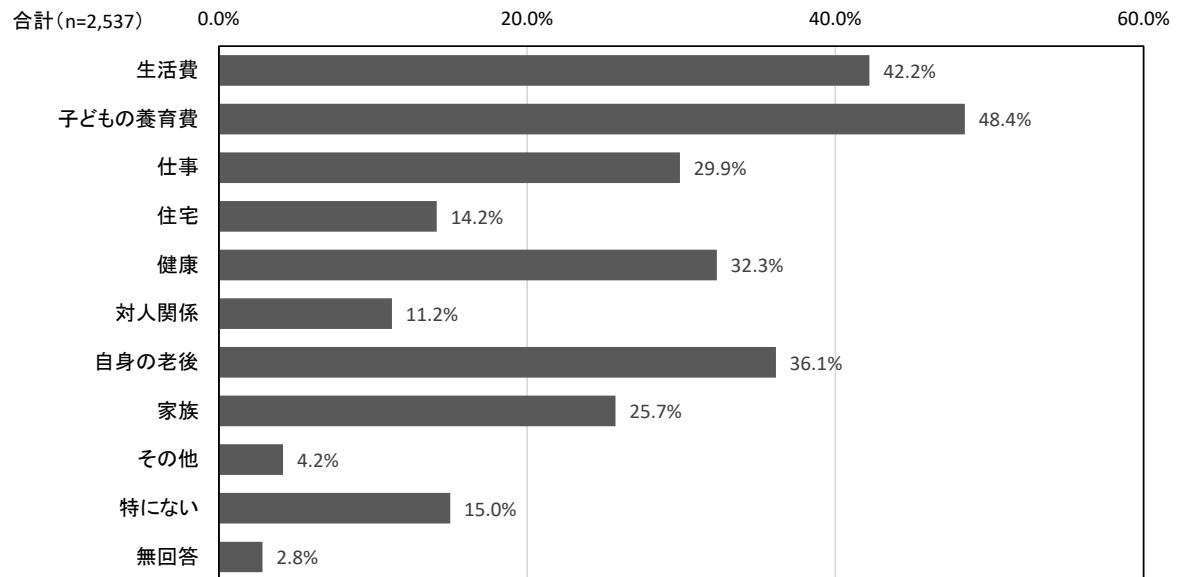
| | 調査数 | お子さんの希望と異なるから | お子さんの学力に合わないから | 経済的な余裕がないから | 勉強のサポートができないから | その他 | 無回答 |
|-----------|-----|---------------|----------------|-------------|----------------|-------|------|
| 全体 | 95 | 30.5% | 38.9% | 42.1% | 14.7% | 14.7% | 2.1% |
| 子どもの貧困世帯 | 14 | 14.3% | 42.9% | 64.3% | 21.4% | 21.4% | 0.0% |
| 非子どもの貧困世帯 | 81 | 33.3% | 38.3% | 38.3% | 13.6% | 13.6% | 2.5% |

【子どもの貧困別】でみると、「子どもの貧困世帯」は、「経済的な余裕がないから」(64.3%)が全体より多くなっており、「お子さんの希望と異なるから」(14.3%)が全体より少なくなっています。

(2) 保護者の生活環境

■生活の悩み

問29 あなたは、現在、ご自身の生活に関して、どのようなことについて悩んでいますか。



生活の悩みについては、「子どもの養育費」(48.4%)が最も多く、次いで「生活費」(42.2%)、「自身の老後」(36.1%)、「健康」(32.3%)、「仕事」(29.9%)の順となっています。

【子どもの貧困別】

| | 調査数 | 生活費 | 子どもの養育費 | 仕事 | 住宅 | 健康 |
|-----------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|
| 全体 | 1,859 | 44.8% | 49.7% | 31.2% | 14.8% | 32.8% |
| 子どもの貧困世帯 | 176 | 76.7% | 73.9% | 46.0% | 26.1% | 44.3% |
| 非子どもの貧困世帯 | 1,683 | 41.5% | 47.2% | 29.6% | 13.6% | 31.6% |

| | 対人関係 | 自身の老後 | 家族 | その他 | 特にない | 無回答 |
|-----------|-------|-------|-------|------|-------|------|
| 全体 | 11.5% | 37.2% | 26.7% | 4.5% | 14.5% | 0.8% |
| 子どもの貧困世帯 | 15.9% | 49.4% | 35.2% | 2.8% | 3.4% | 0.0% |
| 非子どもの貧困世帯 | 11.0% | 35.9% | 25.8% | 4.7% | 15.7% | 0.9% |

【子どもの貧困別】でみると、“子どもの貧困世帯”は、「生活費」(76.7%)、「子どもの養育費」(73.9%)、「仕事」(46.0%)、「住宅」(26.1%)、「健康」(44.3%)、「自身の老後」(49.4%)が全体より多くなっています。

【世帯構成別】

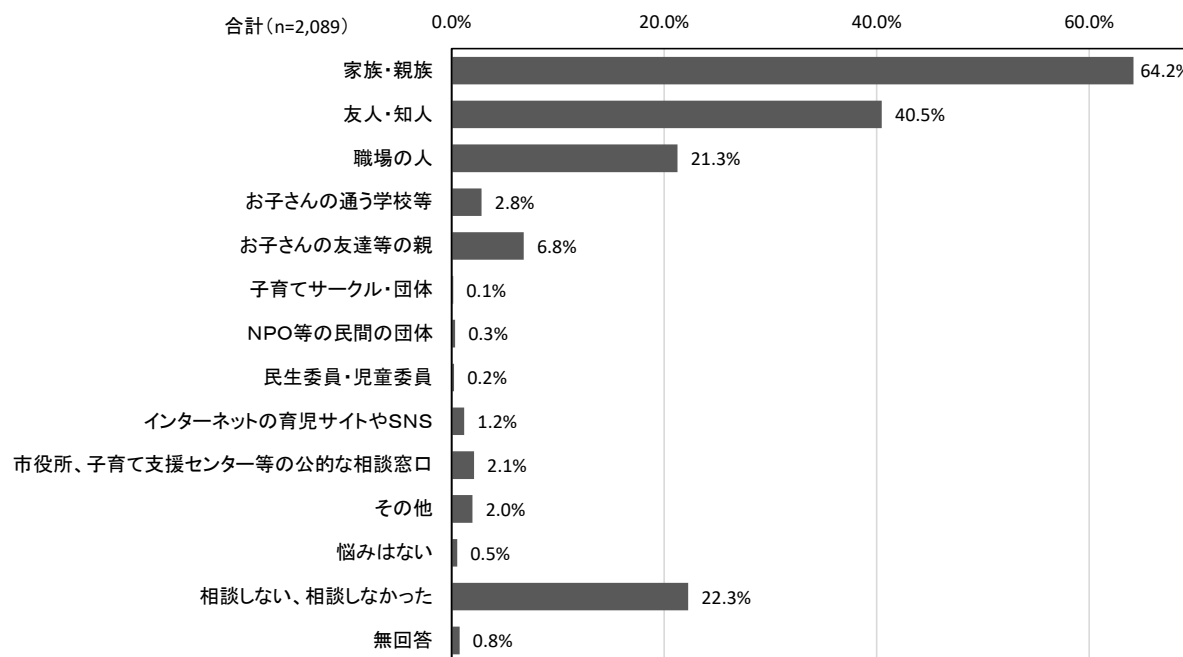
| | 調査数 | 生活費 | 子どもの 養育費 | 仕事 | 住宅 | 健康 |
|--------------|-------|--------------|--------------|-------|-------|-------|
| 全体 | 2,471 | 42.8% | 49.0% | 30.2% | 14.2% | 32.9% |
| 夫妻と子どもからなる世帯 | 1,422 | 39.0% | 46.6% | 28.0% | 12.7% | 33.3% |
| 父親と子どもからなる世帯 | 125 | 44.8% | 42.4% | 32.0% | 15.2% | 30.4% |
| 母親と子どもからなる世帯 | 281 | 57.7% | 57.3% | 39.5% | 22.1% | 32.7% |
| 三世帯世帯(ふたり親) | 447 | 40.0% | 49.4% | 28.6% | 13.0% | 32.4% |
| 三世帯世帯(ひとり親) | 144 | 52.1% | 59.7% | 34.7% | 13.9% | 29.9% |
| その他 | 52 | 57.7% | 51.9% | 38.5% | 21.2% | 40.4% |

| | 対人関係 | 自身の老後 | 家族 | その他 | 特にない | 無回答 |
|--------------|-------|-------|-------|------|-------|------|
| 全体 | 11.4% | 36.5% | 26.0% | 4.3% | 15.3% | 1.5% |
| 夫妻と子どもからなる世帯 | 10.5% | 35.9% | 25.2% | 4.6% | 16.5% | 1.5% |
| 父親と子どもからなる世帯 | 11.2% | 35.2% | 20.0% | 8.0% | 15.2% | 0.8% |
| 母親と子どもからなる世帯 | 15.7% | 43.4% | 26.0% | 3.2% | 10.0% | 1.1% |
| 三世帯世帯(ふたり親) | 11.6% | 31.5% | 32.0% | 3.8% | 16.6% | 2.2% |
| 三世帯世帯(ひとり親) | 10.4% | 43.8% | 22.2% | 2.1% | 9.7% | 2.1% |
| その他 | 11.5% | 44.2% | 21.2% | 1.9% | 17.3% | 0.0% |

【世帯構成別】でみると、“母親と子どもからなる世帯”は、「生活費」(57.7%)が全体より多くなっています。“三世帯世帯(ひとり親)”は、「子どもの養育費」(59.7%)が全体より多くなっています。

■生活の相談

問30 あなたは問29の悩みをどなた(どこ)に相談していますか(しましたか)。



生活の悩みを相談する相手については、「家族・親族」(64.2%)が最も多く、次いで「友人・知人」(40.5%)、「相談しない、相談しなかった」(22.3%)、「職場の人」(21.3%)の順となっています。

【子どもの貧困別】

| | 調査数 | 家族・親族 | 友人・知人 | 職場の人 | お子さんの通う学校等 |
|-----------|-------|-------|-------|-------|------------|
| 全体 | 1,578 | 65.0% | 42.2% | 21.7% | 2.9% |
| 子どもの貧困世帯 | 170 | 52.9% | 43.5% | 16.5% | 1.8% |
| 非子どもの貧困世帯 | 1,408 | 66.4% | 42.0% | 22.3% | 3.1% |

| | お子さんの友達等の親 | 子育てサークル・団体 | NPO等の民間の団体 | 民生委員・児童委員 | インターネットの育児サイトやSNS |
|-----------|------------|------------|------------|-----------|-------------------|
| 全体 | 6.8% | 0.2% | 0.3% | 0.1% | 1.2% |
| 子どもの貧困世帯 | 4.1% | 0.0% | 1.2% | 0.6% | 0.6% |
| 非子どもの貧困世帯 | 7.1% | 0.2% | 0.1% | 0.1% | 1.3% |

| | 市役所、子育て支援センター等の公的な相談窓口 | その他 | 悩みはない | 相談しない、相談しなかった | 無回答 |
|-----------|------------------------|------|-------|---------------|------|
| 全体 | 1.8% | 2.1% | 0.6% | 21.8% | 0.3% |
| 子どもの貧困世帯 | 2.9% | 2.4% | 0.0% | 29.4% | 0.0% |
| 非子どもの貧困世帯 | 1.6% | 2.1% | 0.7% | 20.9% | 0.4% |

【子どもの貧困別】でみると、“子どもの貧困世帯”は、「家族・親族」(52.9%)が全体より少なくなっています。

【世帯構成別】

| | 調査数 | 家族・親族 | 友人・知人 | 職場の人 | お子さんの通う学校等 |
|--------------|-------|-------|-------|-------|------------|
| 全体 | 2,060 | 64.2% | 40.4% | 21.3% | 2.9% |
| 夫妻と子どもからなる世帯 | 1,170 | 68.8% | 39.1% | 21.6% | 3.2% |
| 父親と子どもからなる世帯 | 105 | 56.2% | 36.2% | 19.0% | 1.9% |
| 母親と子どもからなる世帯 | 250 | 48.0% | 40.0% | 19.2% | 3.6% |
| 三世帯世帯(ふたり親) | 365 | 68.5% | 45.8% | 22.5% | 1.9% |
| 三世帯世帯(ひとり親) | 127 | 52.8% | 41.7% | 24.4% | 2.4% |
| その他 | 43 | 51.2% | 37.2% | 9.3% | 0.0% |

| | お子さんの友達等の親 | 子育てサークル・団体 | NPO等の民間の団体 | 民生委員・児童委員 | インターネットの育児サイトやSNS |
|--------------|------------|------------|------------|-----------|-------------------|
| 全体 | 6.9% | 0.1% | 0.3% | 0.2% | 1.2% |
| 夫妻と子どもからなる世帯 | 7.2% | 0.3% | 0.4% | 0.2% | 1.1% |
| 父親と子どもからなる世帯 | 2.9% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.9% |
| 母親と子どもからなる世帯 | 6.0% | 0.0% | 0.8% | 1.2% | 0.0% |
| 三世代世帯(ふたり親) | 9.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.9% |
| 三世代世帯(ひとり親) | 3.9% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.6% |
| その他 | 2.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.3% |

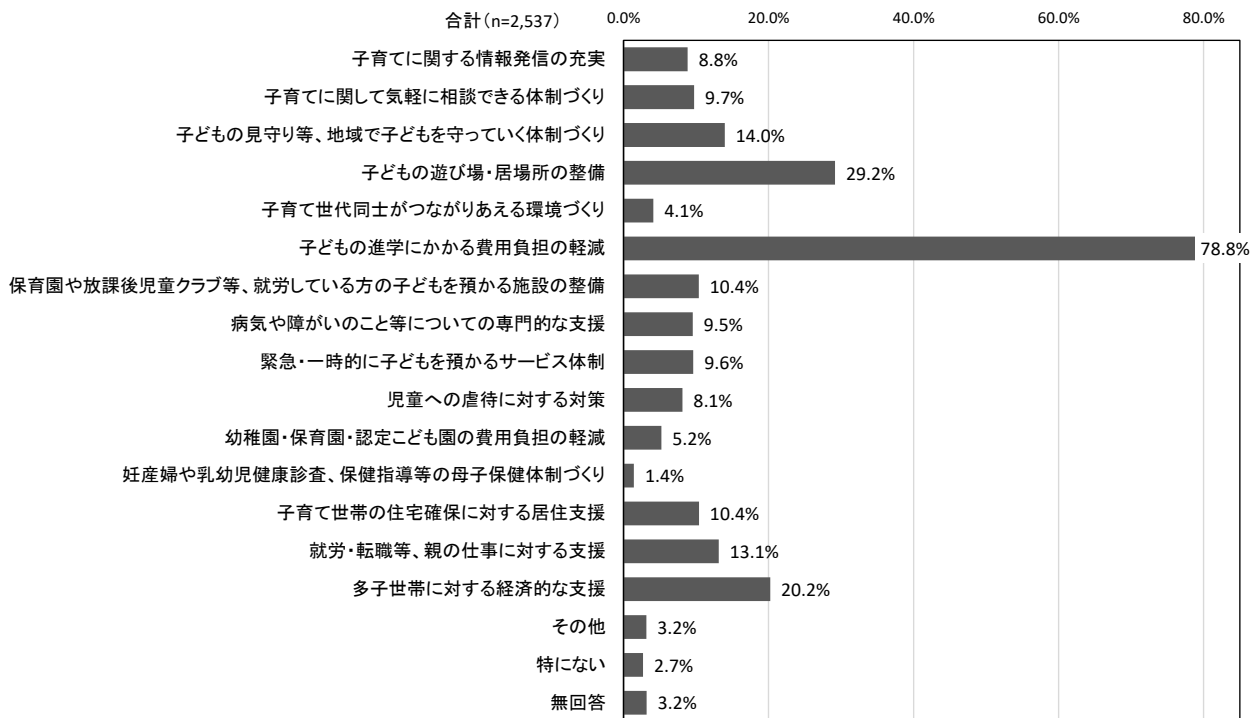
| | 市役所、子育て支援センター等の公的な相談窓口 | その他 | 悩みはない | 相談しない、相談しなかった | 無回答 |
|--------------|------------------------|------|-------|---------------|------|
| 全体 | 2.1% | 2.0% | 0.5% | 22.3% | 0.8% |
| 夫妻と子どもからなる世帯 | 1.8% | 1.7% | 0.6% | 20.0% | 0.5% |
| 父親と子どもからなる世帯 | 2.9% | 1.9% | 0.0% | 25.7% | 1.9% |
| 母親と子どもからなる世帯 | 4.0% | 3.2% | 0.4% | 32.8% | 0.8% |
| 三世代世帯(ふたり親) | 1.1% | 1.9% | 0.3% | 18.1% | 1.4% |
| 三世代世帯(ひとり親) | 1.6% | 3.1% | 1.6% | 26.8% | 0.8% |
| その他 | 9.3% | 0.0% | 0.0% | 39.5% | 0.0% |

【世帯構成別】でみると、“母親と子どもからなる世帯”は、「相談しない、相談しなかった」(32.8%)が全体より多くなっており、「家族・親族」(48.0%)が全体より少なくなっています。“三世代世帯(ひとり親)”は、「家族・親族」(52.8%)が全体より少なくなっています。

(3) 保護者の子育て環境

■ 重要な子育て支援

問34 子育てや子育て世帯に必要なまたは重要だと思う支援は何ですか。重要度が高いと思うものを選んでください。



重要な子育て支援については、「子どもの進学にかかる費用負担の軽減」(78.8%)が最も多く、次いで「子どもの遊び場・居場所の整備」(29.2%)、「多子世帯に対する経済的な支援」(20.2%)の順となっています。

【子どもの貧困別】

| | 調査数 | 子育てに関する情報発信の充実 | 子育てに関して気軽に相談できる体制づくり | 子どもの見守り等、地域で子どもを守っていく体制づくり | 子どもの遊び場・居場所の整備 | 子育て世代同士がつながりあえる環境づくり |
|-----------|-------|----------------|----------------------|----------------------------|----------------|----------------------|
| 全体 | 1,859 | 9.0% | 10.5% | 14.6% | 30.2% | 4.2% |
| 子どもの貧困世帯 | 176 | 5.1% | 10.8% | 10.2% | 24.4% | 3.4% |
| 非子どもの貧困世帯 | 1,683 | 9.4% | 10.5% | 15.0% | 30.8% | 4.3% |

| | 子どもの進学にかかる費用負担の軽減 | 保育園や放課後児童クラブ等、就労している方の子どもを預かる施設の整備 | 病気や障がいのこと等についての専門的な支援 | 緊急・一時的に子どもを預かるサービス体制 | 児童への虐待に対する対策 | 幼稚園・保育園・認定こども園の費用負担の軽減 |
|-----------|-------------------|------------------------------------|-----------------------|----------------------|--------------|------------------------|
| 全体 | 80.9% | 11.4% | 10.3% | 10.4% | 8.5% | 5.5% |
| 子どもの貧困世帯 | 83.0% | 9.7% | 9.7% | 10.2% | 9.1% | 9.7% |
| 非子どもの貧困世帯 | 80.7% | 11.6% | 10.4% | 10.4% | 8.4% | 5.1% |

| | 妊産婦や乳幼児健康診査、保健指導等の母子保健体制づくり | 子育て世帯の住宅確保に対する居住支援 | 就労・転職等、親の仕事に対する支援 | 多子世帯に対する経済的な支援 | その他 | 特になし |
|-----------|-----------------------------|--------------------|-------------------|----------------|------|------|
| 全体 | 1.4% | 10.5% | 14.1% | 21.1% | 3.6% | 2.7% |
| 子どもの貧困世帯 | 1.7% | 26.7% | 26.1% | 29.0% | 5.7% | 0.6% |
| 非子どもの貧困世帯 | 1.4% | 8.9% | 12.8% | 20.3% | 3.3% | 3.0% |

| | 無回答 |
|-----------|------|
| 全体 | 0.6% |
| 子どもの貧困世帯 | 1.1% |
| 非子どもの貧困世帯 | 0.6% |

【子どもの貧困別】で見ると、“子どもの貧困世帯”は、「子育て世帯の住宅確保に対する居住支援」(26.7%)、「就労・転職等、親の仕事に対する支援」(26.1%)が全体より多くなっています。

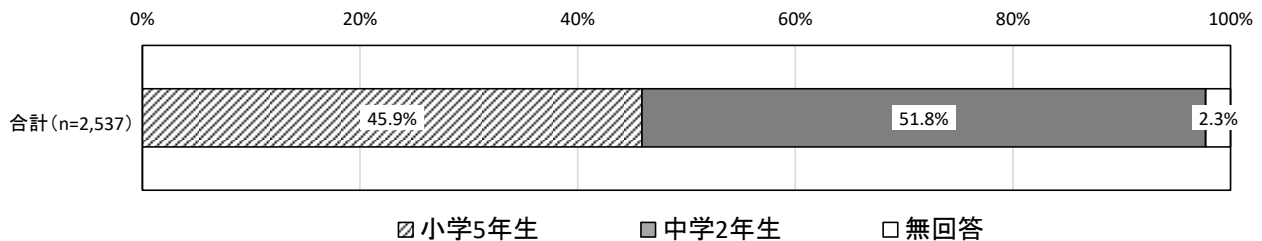
Ⅲ 主な調査結果（児童・生徒）

1. 回答者の属性

(1) 回答者の属性

■ 学年

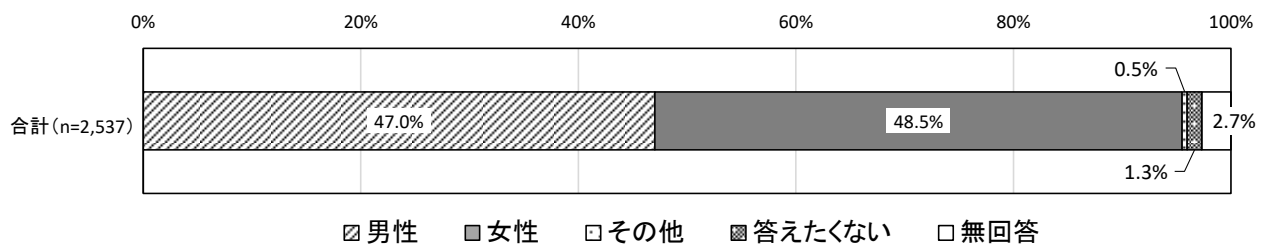
問1 あなたは次のうちどちらですか。



回答者の学年については、「小学5年生」が45.9%、「中学2年生」が51.8%となっています。

■ 性別

問2 あなたの性別を教えてください。



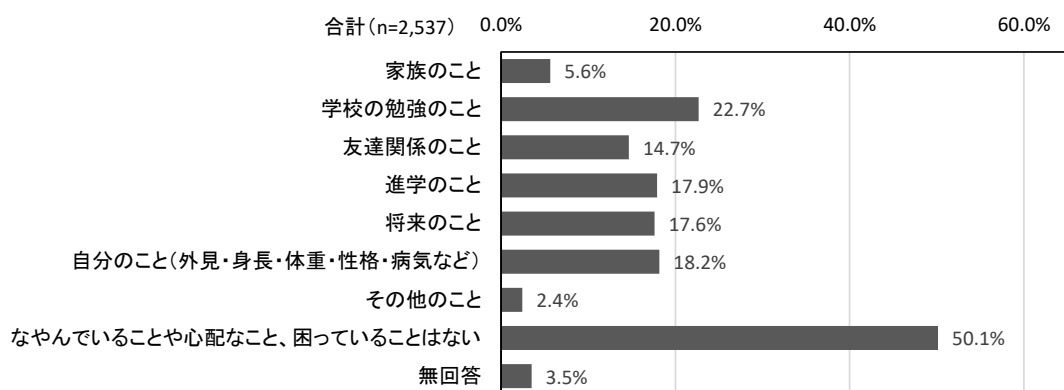
回答者の性別については、「男性」が47.0%、「女性」が48.5%となっています。

2. 調査結果の集計

(1) 回答者の生活環境

■ なやんでいること

問6 あなたが今なやんでいることや心配なこと、困っていることなど、だれかに相談したいと思っていることはどんなことですか。



なやんでいることについては、「なやんでいることや心配なこと、困っていることはない」(50.1%)が最も多く、次いで「学校の勉強のこと」(22.7%)、「自分のこと(外見・身長・体重・性格・病気など)」(18.2%)、「進学のこと」(17.9%)、「将来のこと」(17.6%)の順となっています。

【子どもの貧困別】

| | 調査数 | 家族のこと | 学校の勉強のこと | 友達関係のこと | 進学のこと | 将来のこと | 自分のこと(外見・身長・体重・性格・病気など) |
|-----------|-------|-------|----------|---------|-------|-------|-------------------------|
| 全体 | 1,859 | 5.8% | 22.5% | 15.0% | 17.3% | 17.3% | 18.5% |
| 子どもの貧困世帯 | 176 | 6.8% | 26.1% | 18.2% | 17.0% | 15.3% | 20.5% |
| 非子どもの貧困世帯 | 1,683 | 5.7% | 22.2% | 14.7% | 17.3% | 17.5% | 18.3% |

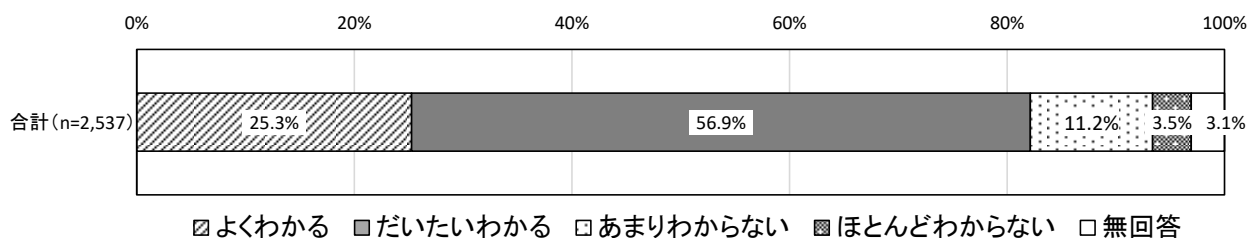
| | その他のこと | なやんでいることや心配なこと、困っていることはない | 無回答 |
|-----------|--------|---------------------------|------|
| 全体 | 2.0% | 51.2% | 2.6% |
| 子どもの貧困世帯 | 2.8% | 50.6% | 4.0% |
| 非子どもの貧困世帯 | 2.0% | 51.2% | 2.4% |

【子どもの貧困別】で見ると、全体より大きく違いのある項目はありませんでした。

(2) 勉強や将来のこと

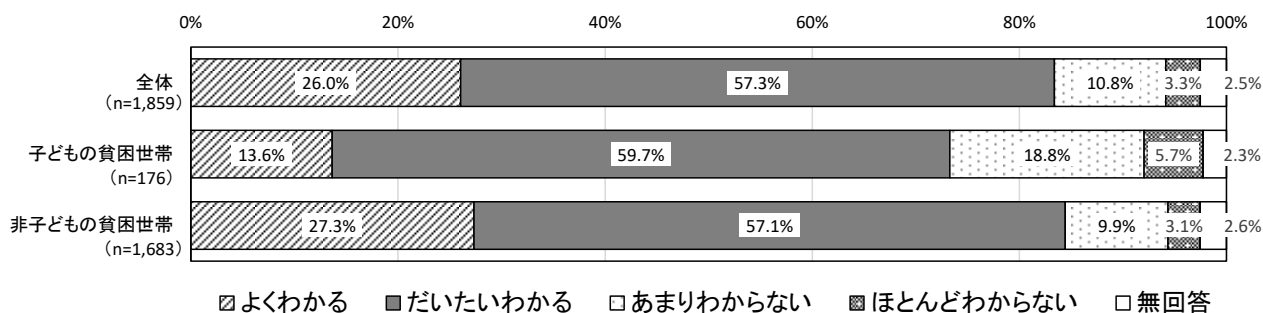
■授業の理解

問11 あなたは、学校の授業の内容はどれくらいわかりますか。



授業の理解については、「だいたいわかる」(56.9%)が最も多く、次いで「よくわかる」(25.3%)となっています。

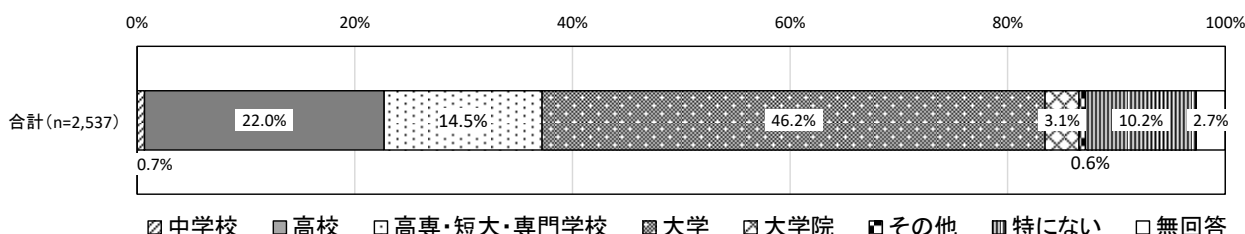
【子どもの貧困別】



【子どもの貧困別】でみると、「子どもの貧困世帯」は、「よくわかる」(13.6%)が全体より少なくなっています。

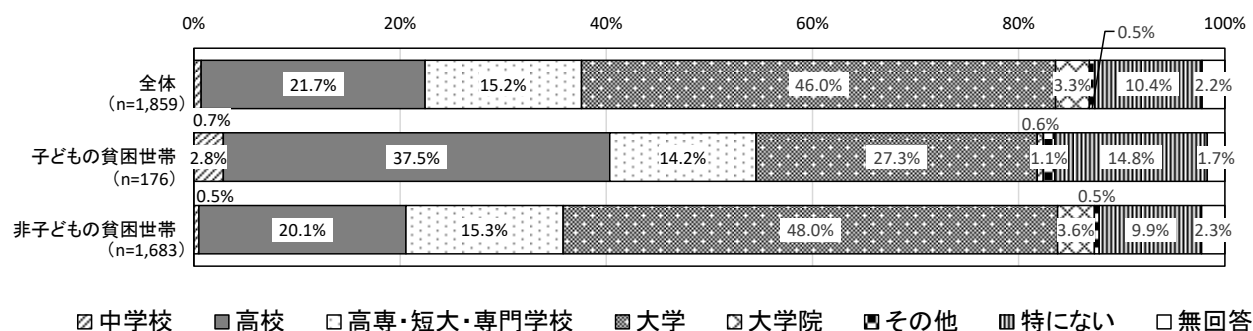
■進学などの希望

問13 あなたは、将来どの学校までできれば行きたいと思えますか。



進学などの希望については、「大学」(46.2%)が最も多く、次いで「高校」(22.0%)、「高専・短大・専門学校」(14.5%)の順となっています。

【子どもの貧困別】

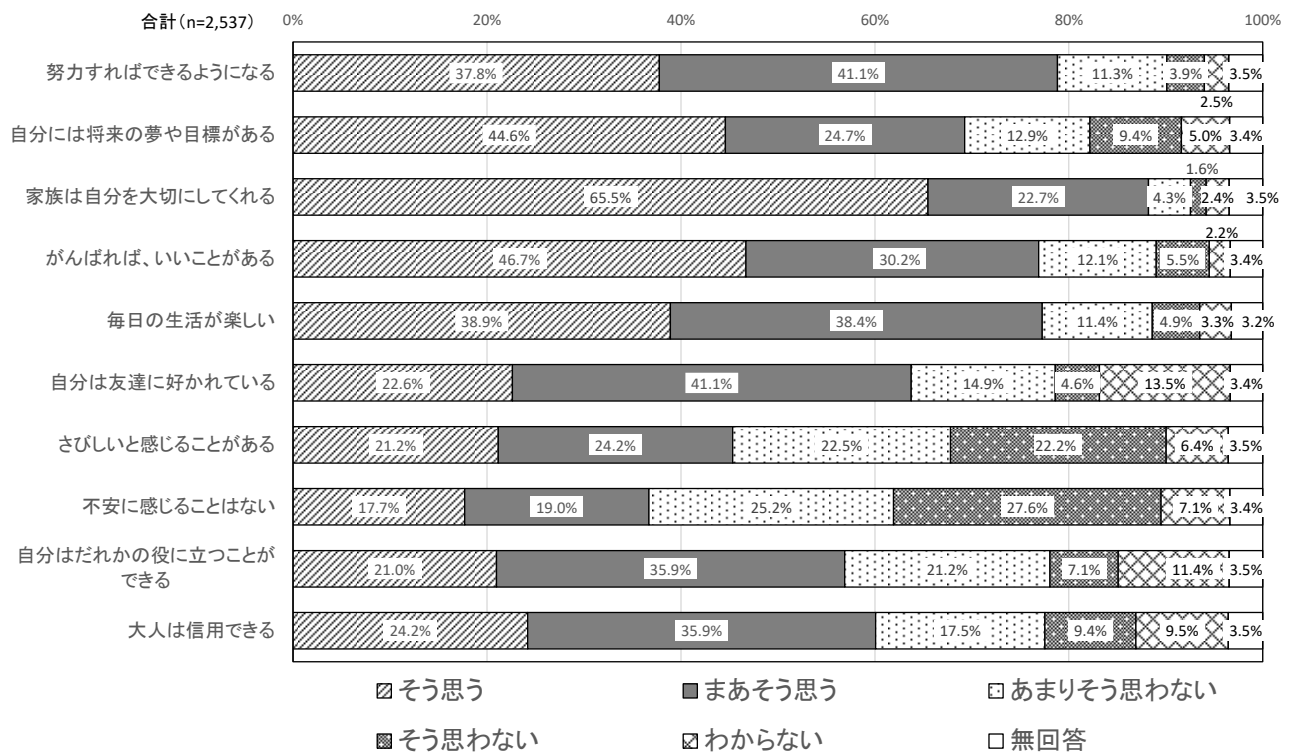


【子どもの貧困別】でみると、「子どもの貧困世帯」は、「高校」(37.5%)が全体より多くなっており、「大学」(27.3%)が全体より少なくなっています。

(3) 日常生活の中で感じていること

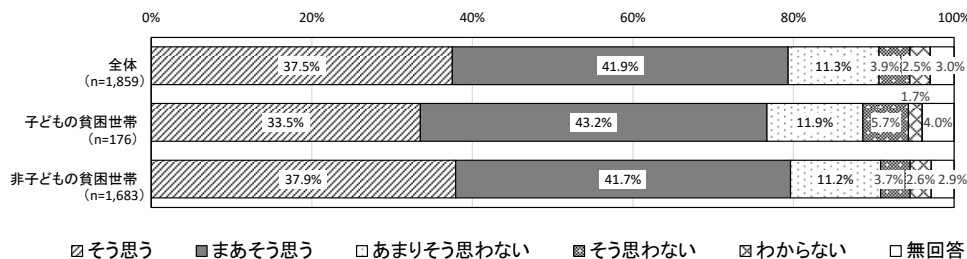
■ 自己肯定感などについて

問15 あなたが日常生活の中で感じていることについて、教えてください。

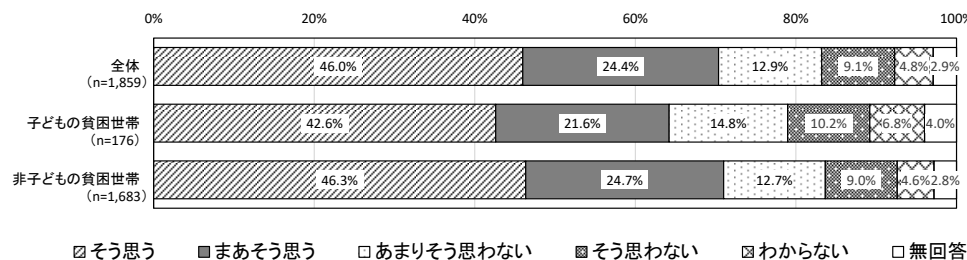


日常生活の中で感じていることについては、「そう思う」が最も多いものは“家族は自分を大切にしてくれる”（65.5%）、次いで“がんばれば、いいことがある”（46.7%），“自分には将来の夢や目標がある”（44.6%），“毎日の生活が楽しい”（38.9%），“努力すればできるようになる”（37.8%）の順となっています。

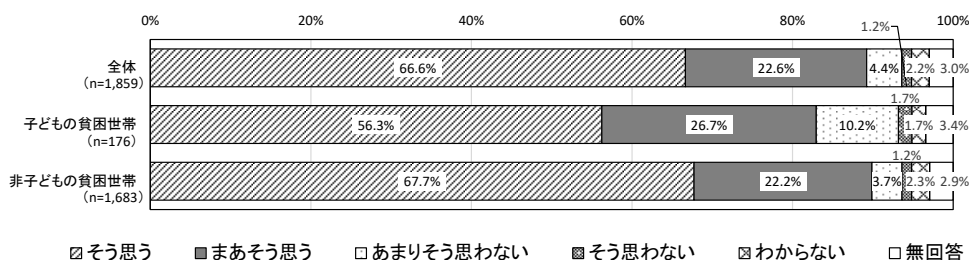
【子どもの貧困別】（努力すればできるようになる）



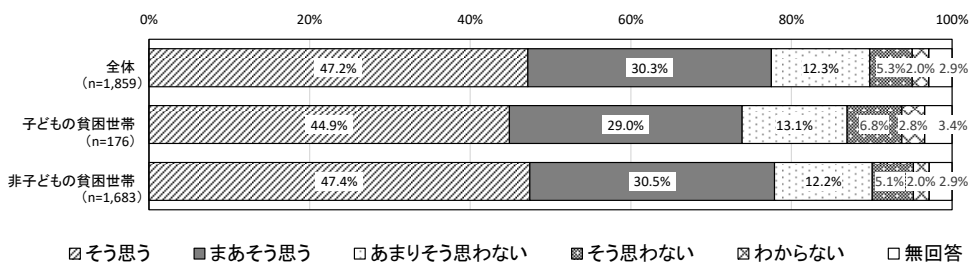
【子どもの貧困別】（自分には将来の夢や目標がある）



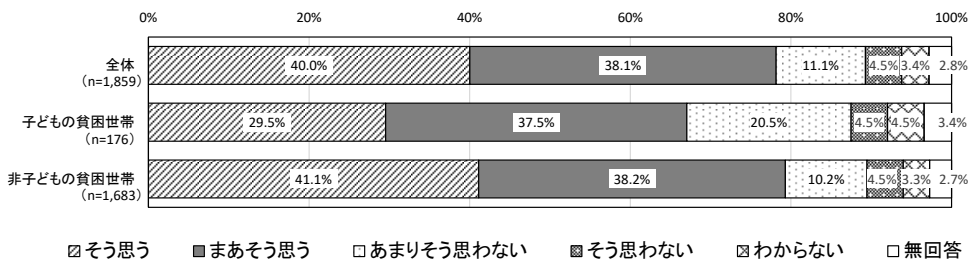
【子どもの貧困別】(家族は自分を大切にしてくれる)



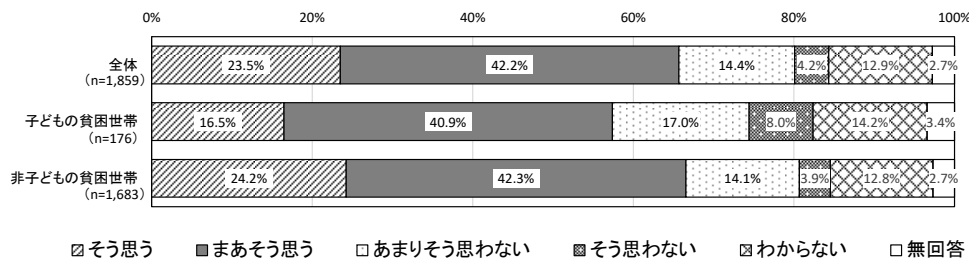
【子どもの貧困別】(がんばれば、いいことがある)



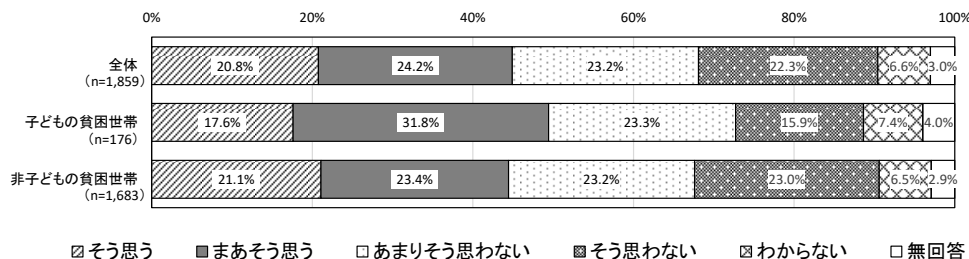
【子どもの貧困別】(毎日の生活が楽しい)



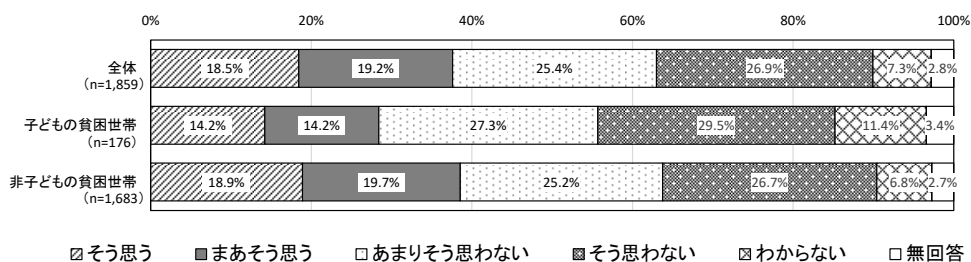
【子どもの貧困別】(自分は友達に好かれている)



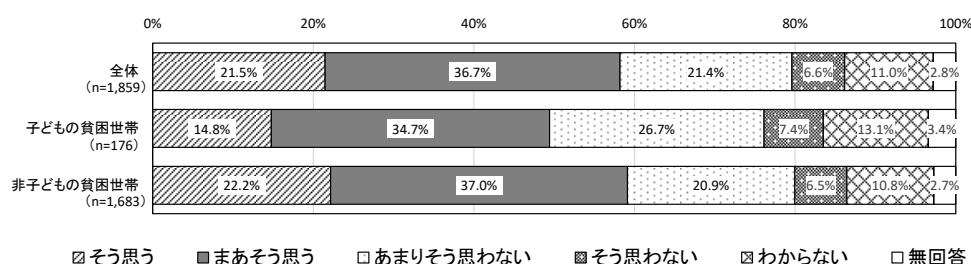
【子どもの貧困別】(さびしいと感じることがある)



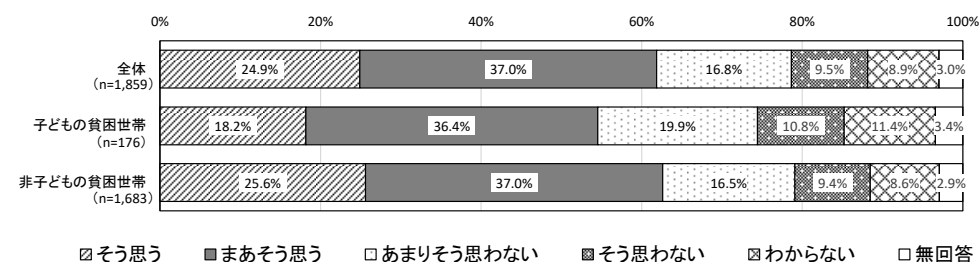
【子どもの貧困別】(不安に感じることはない)



【子どもの貧困別】(自分はだれかの役に立つことができる)



【子どもの貧困別】(大人は信用できる)



【子どもの貧困別】でみると、“子どもの貧困世帯”は、“家族は自分を大切にしてくれる”について「そう思う」(56.3%)が全体より比較的少なくなっています。また、“毎日の生活が楽しい”について「そう思う」(29.5%)が全体より比較的少なくなっています。全項目を通した傾向として“子どもの貧困世帯”は、肯定的な感覚が全体より少なくなっています。

IV 今後の課題

～沼津市の将来を担う子どもたちを誰一人取り残さないために～

「子供の貧困対策に関する大綱」においては、「全ての子供たちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指し、子供の貧困対策を総合的に推進する」ことが目的・理念とされています。また、令和元年の一部改正では、基本理念として子どもの最善の利益が優先考慮されること、貧困の背景に様々な社会的要因があること等が明記されました。

全国的な傾向として、ひとり親世帯、なかでも圧倒的に高い割合にある母子世帯の生活は苦しい状況に置かれています。

近年では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う生活の変化や、経済的影響により、さらに貧困世帯が追い詰められていることが懸念されます。

「すべての子どもが夢と希望をもって健やかに成長するために」という、沼津市子どもの貧困対策推進計画の基本理念の実現を目指すために克服すべき課題を考察します。

●教育の支援

保護者・子どもともに、進学先の希望について「大学」が最も多くなっているものの、希望どおり進学すると思うかの問いには、「思う」と回答した方は 37.7%にとどまりました。子どもの貧困世帯では、21.9%とさらに割合は低下しています。進学先の希望が叶わない理由については、「経済的な余裕がないから」が最も多くなっており、無料で利用できる沼津学習支援センターや就学援助制度のさらなる周知や拡充が必要です。

●生活の支援

生活の悩みについては、「子どもの養育費」が最も多く、次いで「生活費」「自身の老後」「健康」「仕事」等が挙げられていました。子どもの貧困世帯でみると、「生活費」「子どもの養育費」の割合が7割以上と高くなっています。また、母親と子どもからなる世帯についても「生活費」と「子どもの養育費」の割合が約6割となっています。これらのことから、貧困世帯や特にひとり親世帯に対する支援が急務であり、ひとり親世帯が対象である児童扶養手当やひとり親家庭等医療費助成などのさらなる周知が必要であるとともに、悩みの相談先として、「市役所、子育て支援センター等の公的な相談窓口」は 2.1%にとどまっていることから、相談しやすい環境づくりに取り組むことが必要です。

●保護者の就労支援

両親の仕事をしている割合は、前回調査を下回っているものの、「正社員・正規職員」の割合は父親が 82.7%、母親が 32.4%で、前回調査をやや上回っています。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、父親の 21.0%、母親の 18.2%が「収入の減少」があったと回答しており、また、父親の 1.2%、母親の 2.2%が「失業」と回答しています。新型コロナウイルス感染症拡大が落ち着きを取り戻すことによって、前回調査を下回った両親の仕事をしている割合等は改善されることが期待されますが、それまでの就労支援については引き続き継続していくことが必要です。

●経済的支援

本市の子どもの貧困率は9.5%と前回調査時の10.0%より改善されました。一方で、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって、収入の減少や失業を経験した方がいることや、近年の歴史的円安に伴う物価高の影響を注視する必要があります。また、子育てや子育て世帯に必要なまたは重要だと思う支援についての問では、「子どもの進学にかかる費用負担の軽減」が圧倒的に多く(78.8%)、保護者や子どもたちの将来の希望をかなえるためにも、進学に関わる経済的支援が重要となっています。

●支援ネットワークの推進・活用

今回実施した児童・生徒調査では、「努力すればできるようになる」「自分には将来の夢や目標がある」「家族は自分を大切にしてくれる」などの日常生活の中で感じる自己肯定感についての問いで、「そう思う」の割合が子どもの貧困世帯では全項目を通じた傾向として肯定的な感覚が全体より少なくなっていました。

家庭の環境や事情等が原因となる貧困により、学校の友達等と比較して習い事等をする機会がなかったり、おもちゃや服を買ってもらえなかったり、家族で旅行に行けなかったりする経験をすることで、「自分は価値のない人間だ」と考え、将来への夢や希望を失ってしまう要因になる可能性があります。そして自己肯定感の低下は学力格差を生み出し、学力格差は就学の格差、つまりは所得の格差を生み出します。そして、その子どもたちが親になった時、その子どもも貧困になる可能性があります。

貧困の連鎖を断ち切るためには、経済的支援も大切ですが、学校の先生に悩みを相談しやすい環境の整備や、親や友だちと良い関係を築くための環境の整備も大切であり、それらを市や学校関係者、保護者だけでなく、地域全体で支援のネットワークを築く必要があります。

